

科目	建築施工 (Building Operation and Management)		
担当教員	浅見 雅之 非常勤講師		
対象学年等	都市工学科・5年・前期・選択・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-S3(100%)	JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	建築生産は発注者が企画し、設計図書を仕上げ、それにしたがって経済的に具現化するものである。現在、建築施工技術は多岐にわたり、日々進化しているため、施工の基本を重点に建物を造る仕組みや、プロセス、工事の計画、工事監理、施工法及び各施工技術について講義を行い、建築士試験にも対応可能な知識を身につける。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S3】受注した建築物を設計図書通りに完成し、引き渡すまでの施工技術全般の基本を習得する。		施工技術全般の基本事項を理解しているか小テスト・中間試験で評価する。
2	【A4-S3】建築工事に関する契約・法令・品質管理の手法等について理解する。		契約・法令・品質管理の手法等について理解できているか小テスト・中間試験・定期試験で評価する。
3	【A4-S3】建設産業の現状、建築生産にあたっての管理手法、各工事の知識などを修得する。		管理手法、各工事の知識などを理解できているか小テスト・定期試験で評価する。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験60% 小テスト40% として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均とする。100点満点とし60点以上を合格とする。本科目は、各回の授業で理解を深めることが習熟に際して重要であることから、評価では毎回ごとに習熟度を図る小テストを重視する。		
テキスト	なし。プリントを配布して授業を行う。		
参考書	「建築施工用教材」(日本建築学会) 「初学者の建築講座・建築施工」中澤明夫・角田誠(市ヶ谷出版) 「初めての建築施工」建築のテキスト編集委員会(学芸出版社)		
関連科目	施工管理学, 都市環境工学, 建築計画, 建設都市法規		
履修上の注意事項	毎回の授業の積み重ねが必要であり各回の授業は相互に関連するものである。従い、各回で授業の習熟度を確認する。		

授業計画(建築施工)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	建築工事の契約と施工計画	建設施工全般についての総論.施工主から依頼され,設計図書通りに建築物が出来上がる過程を学ぶ.
2	建築工事の施行計画と施工管理	建築工事の施工管理および,工事着手前の敷地調査等について学ぶ.
3	仮設工事・土工事・基礎工事	仮設工事および,土工事・基礎工事について学ぶ.
4	鉄筋コンクリート工事(1)鉄筋工事	鉄筋コンクリート工事のうち,鉄筋のとりあつかい,施工上の留意点について学ぶ.
5	鉄筋コンクリート工事(2)型枠工事	鉄筋コンクリート工事のうち,型枠のとりあつかい,施工上の留意点について学ぶ.
6	鉄筋コンクリート工事(3)コンクリート工事	鉄筋コンクリート工事のうち,コンクリートのとりあつかいと品質,施工方法について学ぶ.
7	プレキャスト・補強コンクリートブロック工事	ALC板のほかプレキャスト工事,補強コンクリートブロック工事の施工上の留意点について学ぶ.
8	中間試験	1~7回までの範囲について試験を行う.
9	鉄骨工事	鉄骨工事の基礎,施工上の留意点について学ぶ.
10	木工事	木工事の概要,在来工法を中心とした施工上の留意点について学ぶ.
11	防水・屋根工事	防水・屋根工事の概要,施工上の留意点について学ぶ.
12	左官・タイル工事	左官工事・タイル工事の概要,施工上の留意点について学ぶ.
13	ガラス・内装・塗装工事	ガラス工事・内装工事・塗装工事の概略,施工上の留意点について学ぶ.
14	設備工事・外構工事	設備工事・外構工事の施工上の留意点について学ぶ.
15	事例紹介・定期試験の返却	建築施工現場や各種工事等について事例を紹介する.定期試験の返却・解説を行う.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

備考 本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の自己学習が必要である.
前期中間試験および前期定期試験を実施する.